

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	作成年月日
神戸町	下宮 地域 新屋敷・落合付寄・斉田・柳瀬・瀬古	令和3年3月25日	令和3年3月25日

1. 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	247.0 ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	119.6 ha
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	21.1 ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	40.5 ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	21.5 ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	109.5 ha
(備考)	
生産調整の対象水田を基にアンケート調査を実施した。	

注1:③の「70才以上」には、地域の実情に応じて、5～10年後の農地利用を議論する上で適切な年齢を記載します。

注2:④の面積は、下記の「(参考)中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。

注3:アンケート等により、農地中間管理機構の活用や基盤整備の実施、作物生産や鳥獣被害防止対策、災害対策等に関する意向を把握した場合には、備考欄に地区の現状に関するデータとして記載してください。

注4:プランには、話し合いに活用した地図を添付してください。

2. 対象地区の課題

下宮地域は、神戸町内でも野菜を中心に優良農地がひろがる地域であり、集落営農や会社経営が中心経営体として耕作が行われている。揖斐川に面した堤防部分の農地も耕地面積として参入されるため、集積率としては50%程度であるが、平地においてはおおむね農地経営体制は整っていると考えられる。今後の課題としては、集約を進めていきたい。

注:「課題」欄には、「現状」を基に話し合いを通じて揭示された課題を記載してください。

3. 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

今後は、経営体同士で話し合いの場を設けて、常に情報交換をしながら、集約に努めていく。

注1:中心経営体への農地の集約化に関する将来方針は、対象地区を原則として集落ごとに細分化して作成することを想定していますが、その「集落」の範囲は、地域の実情に応じて柔軟に設定してください。

注2:「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実と市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標とする所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針(任意記載事項)

担い手不足などの問題は、町・農協・農業委員会・農地改良組合など話し合いの場を設けて積極的に情報交換をして解決していく。